



通信員コメント欄からの声を集めてみました。

希望記事

やはり日本の伝統文化や歴史などの地元の人だけが知っているようなものを紹介していただければと思います。

四月号よりコラム「ニッポンの世界遺産」の連載を開始しました。「地元の人だけが知っている」場所ではないという点でご要望に沿っていないのですが、日本のすばらしい歴史や自然を再認識させてくれるかと思っています。

・Hobby&Sportsのコーナーは、長年の経験などの紹介ではなく、「簡単にできます」のような軽いタッチの趣味（園芸・写真・スケッチ・釣り・観察・料理）などの記事を希望します。

「軽く」趣味やスポーツに取り組まれている方のご寄稿も熱望していますが、そういう方に執筆をお願いしても遠慮されるケースがほとんどで、結果として長年経験を積まれた方がご執筆されているのが現状です。ここはぜひ読者の皆さまの中で、気楽に取り組まれている方からのご連絡を「心より」お願い申し上げます（打ち合わせの上、ご寄稿をお願いする形になります）。

・退職後などにボランティアに取り組んでいる方が多いが、金銭的な面（旅費、通信費など）最小限の実費対応がどのような状況にあるのか知りたいですが。（他同様意見一名）

「ALPS」七二号（二〇〇五年一〇月号）で、NPO活動をされている方の経済状況を執筆記事で紹介していますが、その後四年近く経過しておりますので、経済環境の変化等も踏まえて、再度特集を組むべき時期かもしれません。検討します。

・我が家のペット紹介の充実（犬や猫以外も&紹介コメント）はどうでしょうか。紹介コメントはペットによりどう癒され（心のリフレッシュ）できるかって観点ならいいですね。

いいですね。犬や猫以外のペット紹介も募集しておりますし、紹介コメントがございましたら一緒に掲載いたします。たくさんのご応募をお待ちしております。

その他ご意見



・今回は「食」を題材としたものが幾つかありました。農業が盛んな我が県では「地産地消」に特に力を入れています。まずは意識を変え「食育」が重要であると考えさせられました。
・小泉先生の「食」に関するお話、成る程と思われま。食にまつわる話題が多く、しっかりした「和食」を見直す必要性を強く感じました。（他同様意見多数）

四月号は「食」をテーマに小泉先生へのインタビューと柏原先生の執筆記事というダブル企画としましたので、かなり強いインパクトがあったかと自負しております。食の見直しは普段の生活習慣に直結しているだけに「語るに易く行うに難し」の代表格ですが、記事が見直しを行うきっかけになれば幸いです。

・新宿歌舞伎町ホストの方の活動をこの記事で初めて知りました。機会があれば友達、家族、職場にも伝えようと思います。歌舞伎町のイメージが変わりました。活動の動機についても率直に話しておられるのに好感が持てました。(他同様意見二名)

ありがとうございます。手塚さんの記事については、当編集部内でも執筆をお願いするべきか否か議論がありました。今は読者からこのようにご意見もいただき、紹介することができて良かったと感じています。

・奥地圭子さんの「不登校が教えてくれたこと」が心に残りました。お子さんのいじめで大変悩み、乗り越えて、今のお仕事をされていることに感銘いたしました。(他同様意見二名)

不登校に限らず、わが子の教育にかかわる問題はなかなか難しいです。私も二人の小学生の子供を抱えています。「この子はなぜ他の子と同じにできないのだろう」という思いと「他の子と違っていいのだ」という思いが自分の中で常に葛藤しています。そういう中で奥地さんの記事は自分にとっても大きなヒントになったように思います。

・私は三〇代ですが、内容的に定年間近の方向けの内容だと思っています。若い人も興味をもつような内容にしてほしいです。
・全体的に話が堅いイメージです。まるで五〇代六〇代が対象の雑誌というイメージです。若者向けの特集が欲しいです。(他同様意見二名)

本誌はすべての地方公務員を読者対象としており、特定の年齢層を意識した情報誌ではありません。従いまして、号によっては「退職者層向け」や「若者向け」の記事が重なることがあります。ただし四月号に関して言えば、五〇代六〇代のみを対象としている記事は全くないと考えております。飯村先生のキャッシュフロー表や柏原先生の食育の話などは特に、若い方に読んでいただきたいと思っています。

・初めて全部の記事を読みましたが、「地方公務員のためのライフプラン情報誌」という割には、「ごく一般のサラリーマン対象の雑誌で、当たり障りが無いもの」という印象を受けました。地方公務員のライフプランはこうあるべしというものが無い以上難しいことかも知れませんが、単なる気づきにとどまらず、各読者が積極的にライフプランニングに切り込んでいける記事が欲しいし、職場でムーブメントが起こせる発火点であって欲しいなあと思いました。(後略)

厳しいご意見ありがとうございます。「地方公務員のライフプランかくあるべし」をとことん追求してゆくと、内容が堅苦しくなって読み物としての面白さが減り、結果として読まれなくなるというジレンマを抱えています。読者の皆様のライフプランをサポートするという本誌の目的は、実は非常に困難なものかもしれません。だからといって安逸に流されることなく、「これから出す記事が本当に読者のライフプランに役立つのか」を常に問い続けなければならないのだと私どもは考えております。

・とてもすてきなデザイン構成、イラストなども取り入れられており読みやすい冊子だと思います。人生八〇年時代にあって、今、この年代にしかできないことや、この時代にしかできないこと、やらなければならないことなどが発見できる情報誌だと思います。これからも楽しみに読ませていただきます。
・他の雑誌等では読むことの出来ない話題が豊富で興味深く拝見しました。今後とも期待しております。

ありがとうございます。これからも頑張ります。